まんがで読めるごみってなんだろう？

世界一わかりやすいごみの本

未来の地球のために出来ること

四年　はさはら　みはる

私は、学校でごみについて学びました。それをもう一度本で学んでみたいと思い、この本を選びました。

この本は、お笑い芸人をやりながら、ごみの清掃員としても働いている、たさざわしゅういちさんが、「ごみとは何か」について分かりやすくまとめた本です。

この本で、一番おどろいたことは、チラシなどの紙類を古紙の日に出せば、新しい紙に生まれ変わらせることができるということです。私の家では、いらなくなった紙類は可燃ごみの日に出していました。

いつも何も考えずに捨てていた紙類も、分別して出せば、生まれ変わらせることができるし、可燃ごみを減らすこともできます。そして、もう一つ私ができることはないか考え

てみました。私の家では、牛乳やジュースの紙パックを、一か月に十枚くらい捨てています。今までは飲み終わったら、そのままごみとして捨てていました。

でも本を読んで、紙パックもリサイクルできることを知りました。紙パック三十枚で、トイレットペーパーが五個作れるそうです。そこで、一年間でどれくらいになるのか計算してみました。一か月に十枚なら、一年間で百二十枚です。百二十枚の紙パックをリサイクルすると、トイレットペーパーを二十個も作ることができます。

私は、二十個も作れることにびっくりしました。今までごみだと思って捨てていた物が分別するだけで、こんなにたくさんの物に生まれ変わることができるからです。紙を作るためには、木などの資源が必要です。使い終わった紙をもう一度使うことができれば、新しく使う資源を減らすことにつながります。私の家だけでは少しの量かもしれません。で

も、たくさんの人が同じように分別すれば、大きな量になると思います。

この本を読むまでは、ごみは「いらなくなった物」だと思っていました。でも、ごみの中には、分別すればもう一度使える「資源」がたくさんあることを知りました。これからは、紙パックを洗って、開いて、乾かして古紙回収に出したいです。そして、紙類もすぐにごみ箱に捨てずに、「これはもう一度使えるかな」と考えてから捨てたいです。

一人の力は小さくても、自分にできることを続けることが、木や自然を守ることにつながると思います。まずは、私の家のごみ箱から変えていきたいです。